

タイ洪水被害

復旧急ピッチ

営業・稼働再開相次ぐ

浸水被害収束へ

10月から深刻化したタイの洪水は河川の水位も下がり、水も引き始めている。首都バンコクでは市民生活は元に戻りつつある。中・南部の被害の大きかった工業団地でも浸水は収束に向かっている。被災者への懸命な作業が続いている。

「ユニクロ」3号店開設

バンコク市内

バンコク市内は浸水被害に遭った地域もあるが、周辺の水は引いて、通常生活に戻りつつある。洪水時も商品供給は問題はなかった。富裕層が避難しているため、中心街の百貨店などでは売り上げに影響が出ているが、完全に復旧すれば通常の状態に回復すると見込まれる。

ファーストリテイリンググループは、タイ「ユニクロ」の既存2店のうち、2号店のセントラルプラザ・ラプラネ店を11月

4日から休止していたが、11月18日、営業を再開した。もう1店の「セントラル・ワールド」は営業を継続している。洪水の影響で入居する新築商業施設のグランドオープンが延期になった3号店の「セントラルグランドプラザ・ラプラネ店」は、延期した14日に予定通り開店する見通しだ。

伊勢丹バンコク店は通常通りの営業を続けており、タイワールも工場、事務所、売場とも特に被害は出ていない。

子供服の丸久、本・仮工場稼働

アユタヤ県

深刻な被害を受けたアユタヤ

県だが、子供服縫製の丸久(徳島、平石雅浩社長)では、浸水していたアユタヤ本工場から完全な水が引き、15日に再開させるため、150人の従業員で工場内の清掃や機材の搬入など復旧作業を進めている。国内の大手ゼネコンへも最も早い段階で

工事を依頼、工場用水の大型タンクや地元の電気施工会社も確保した。同社では、浸水被害に遭い、操業を停止していたアユタヤ本工場に代わって、浸水の心配のないバンコク市内に仮工場(約3000平方メートル)を設け、本工場から120人が移り、月産7万8千枚のペースで稼働している。本工場が再稼働しても、当面は仮工場も並行して動かす予定だ。

合繊メーカーも復旧に向けて動き始めている。東洋では10月8日に停止したTJTSのアユタヤ工場が11月14日、工業団地の排水作業が始まり、被害状況の確認を進めている。バンコク工場は生産を停止していたが11月17日から復旧作業を開始するなど、稼働再開に向け急ピッチで作業を進めている。帯人グループでも、ポリエチレンファイバー生産のTJTでは、立ち入り

が可能となり、設備の点検を行うっており、ファイバーのTJTLは水の強制排水を開始した。